府立山本高等学校
校長　大石　賢一

令和５年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

古き良き伝統を継承・発展させながら、地域に根ざし、地域に愛される普通科高校として、その「山高スピリッツ」を受け継ぎ、多様化が進む社会において他者を尊重することのできる、自己肯定感の高い、感受性豊かな人間を育成する。

・主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を図ることで基礎学力の定着につながる学習習慣を確立し、一人ひとりの進路目標の達成につながる教育をめざす。
・盛んな学校行事や部活動を通して、目標達成に向けた生徒主体の運営をねばり強く支援し、挑戦する力の育成を図る。
・主体的に他者と協働し、バランス感覚に長けた生徒の育成に取り組む。

２　中期的目標

１　確かな学力の育成
（１）　新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、生徒自らが学び考える授業」をめざした授業改善に取り組む。
ア　「習熟度別・少人数展開授業」の実施により、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。また、教員相互の公開授業・授業見学や生徒による授業アンケート等を活用し「授業力の向上」を図る。さらに ICT を活用した授業改善についても研究を進め、１人１台端末の活用を実践する。
※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度、授業理解度を、令和６年度にはそれぞれ 83%（R２:77%,R３:79.3%,R４:81.6%）、85%以上（R２:83%,R３:82.1%,R４:82.1%）にする。
イ　成績中位者層・成績不振者層に対する教科で統一した指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。
※生徒向け学校教育自己診断における授業集中度、家庭学習度を毎年２%以上引き上げ、令和６年度にはそれぞれ 91%以上（R２:86%,R３:87%,R４:85.2%）、47%以上（R２:43%,R３:42.6%,R４:44.2%）にする。
（２）　より高い進路実現のためのさらなる学力向上に取り組む。
ア　自己決定に対する「より高い課題」を設定し、より高い進路目標の実現に向かって努力する生徒を育成する。
イ　個々の目標や能力に応じた進学講習体制の充実により、生徒の進路実現に取り組む。
※共通テスト出願者数を引き上げ、100 名以上をめざす。（R２:94 名,R３:71 名,R４:81 名）
令和６年度までの３年間で、国公立大学３名（R２:０名,R３:３名,R４:２名）・難関私立大学 20 名以上（R２:20 名,R３:18 名,R４:19 名）の合格（現浪合わせて）をめざす。
（３）　グローバル社会に対応できる人材育成の観点より、将来への夢や志を育み自身の進路を探求させる。
ア　あらゆる教育活動における言語活動を通じて、生徒に「生き方・あり方」や「夢・希望」、「志」を考える機会・環境づくりを図る。
イ　Graded Readers を活用した英語科 Book Report の取組みを通じ、英語に慣れ親しみ英語検定や GTEC にチャレンジする意欲を持たせる。
※図書館の年間貸し出し数 4500 冊以上をめざす。（R２:3790 冊,R３:4154 冊,R４ : 3921 冊）
英語検定（準２級以上）と GTEC（アセスメント含む）の受験者数を 650 名以上とする。（R２:648 名,R３:568 名,R４:570 名/英語検定 102 名計 672 名）
２　感性豊かな人間性を持つ生徒の育成
（１）　生徒の規範意識を醸成するとともに個々の生徒への支援体制を充実させる。
ア　基本的生活習慣の確立のうえに規範意識の高い自主性にあふれた生徒集団づくりをめざす。また、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができるよう教育相談体制の充実を図る。また、「いじめ対策委員会」を中心に、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。
※生徒向け学校教育自己診断における生活指導納得度を毎年１%以上引き上げ令和６年度には 70%以上（R２:71%,R３:63.5%,R４:72.5%）に、担任以外に気軽に相談できる先生の存在肯定率を毎年２%以上引き上げ令和６年度には 55%以上（R２:49%,R３:48.1%,R４:58.8%）にする。また、人間関係のトラブルが少なく落ち着いた環境の肯定率を 95%以上（R２:94%,R３:94.6%,R４:92.9%）に引き上げ、継続をめざす。
（２）　特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。
ア　生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
※生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度を 92%以上（R２:90%,R３:91.1%,R４:93.2%）にする。
（３）　自己発見・自己実現に向けたキャリア教育、人権教育の充実を図る。
ア　高大・企業連携を盛り込んだ３年間のキャリアプランを確立させ、地域や同窓会などの外部人材を積極的に活用し社会に貢献できる人材を育成する。
※生徒向け学校教育自己診断における進路・生き方を考える機会の肯定率、進路情報満足度を毎年１%以上引き上げ令和６年度にはそれぞれ 90%以上（R２:86%,R３:88.5%,R４:89.4%）、95%以上（R２:88%,R３:93.6%,R４:93.2%）にする。
イ　日ごろの教育活動を通じて、自尊感情を育て他者を尊重する意識の醸成を育成するとともに、３年間を見通した人権教育計画に基づき、その充実を図る。
※生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さを学ぶ機会度、命の大切さや社会のルールを学ぶ機会度を毎年１%以上引き上げ令和６年度にはそれぞれ、90%以上（R２:91%,R３:85.9%,R４:88.4%）、85%以上（R２:85%,R３:80.7%,R４:81.2%）にする。
３　地域連携・交流の確立と教職員の働き方改革を両立させる学校組織づくり
（１）　地域交流のさらなる拡大と深化を図り、社会に貢献できる生徒の育成に取り組むとともに外部への情報発信力をさらに強化する。
ア　支援学校、近隣のこども園、小・中学校および地域社会との交流やボランティア活動を通じて、共生社会の担い手となる生徒を育成する。
※生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりの多さ肯定率、近隣の学校との交流の多さ肯定率を令和６年度にはそれぞれ、30%以上（R２:31%,R３:24%,R４:26.7%）、30%以上（R２:26%,R３:23.6%,R４:20.9%）にする。
イ　HP や学校説明会・中学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を強化する。
（２）　業務の効率化（会議のペーパーレス、業務の精選と平準化）を図り、在校時間の縮減に努め教職員の健康管理と意識改革を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和　　年　　月実施分］	学校運営協議会からの意見

府立山本高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R４年度値]	自己評価
１ 確かな学力の育成	（１） 「わかる授業、生徒自らが学び考える授業」をめざした授業改善への取組み ア　習熟度別・少人数展開　授業の充実 イ　公開授業・授業見学、　授業アンケートを活用した授業改善の推進 成績中位者・成績不振者層の指導充実 （２） より高い進路実現への取組み イ　目標・能力に応じた進学講習体制の充実 （３）グローバル社会に対応できる人材育成 イ　Graded Readers の活用から外部検定資格取得の取組み推進	（１） 教科担当や単学年別ではなく、教科ごとに３か年計画を策定し、担当する学年の教科科目の到達目標を設定し、生徒の力を伸ばし、進路実現につなげる。 ア・生徒一人ひとりの学力を伸ばすため、「数学」（第１学年）、「英語」（第１学年・第２学年）の習熟度別・少人数展開授業の充実を図る。 イ・運営委員会、教務部が主体となり授業公開週間を定め（11 月）、グループによる相互授業見学・相互評価を実施する。 ・生徒による授業アンケート（年２回）結果による分析と課題把握を行い、授業改善を進める。 （各教科へのフィードバック） ・各教科・学年が連携し宿題や予習・復習等の課題を設定することで家庭学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。加えてアルバイトをしている生徒の状況を把握し、家庭学習定着度との相関関係をみる。 （２） イ・進路指導部、各教科、学年の組織的連携により進学講習（通常、夏期・冬期）の充実を図る。 ・大学進学希望者を２月・３月入試まで主体的に学習させる。（３年生２月講習の実施） （３） イ・Graded Readers 蔵書数の充実を図り取組みをさらに充実させるとともに英語検定や GTEC に積極的にチャレンジさせる。	（１） 「山高３か年計画」の策定・共有 ア・生徒による授業アンケート、授業進度・難易度の３教科平均肯定率 85%[82.3%] 数学１年：82%[79.3%] 英語１年：88%[85.8%] 英語２年：85%[81.9%] イ・相互の授業見学を教員１人につき、年間２回以上行う。 ・生徒向け学校教育自己診断における 授業満足度 83%[81.6%] 授業理解度 85%[82.1%] ・生徒向け学校教育自己診断における 平日家庭学習時間１時間以上の生徒： 50%以上[44.2%] 平日家庭学習習慣ゼロの生徒： 22%以下[28.6%] （２） イ・「学力生活実態調査」の B ランク以上が全体の 55%以上[53.5%] ・共通テスト出願者 100 名[81 名] 国公立大合格者３名[２名] 関関同立合格者（現浪合計）20 名以上[19 名] （３） ア・貸出し図書数 4500 冊以上[3921 冊] イ・英語検定（準２級以上）、GTEC（アセスメント含む）受験者数 650 名以上[102 名／570 名]	
２ 感性豊かな人間性を持つ生徒の育成	（１） 規範意識の醸成と支援体制の充実 ア　個に応じた支援体制の充実と規範意識、自主性に富んだ生徒の育成	（１） ア・生徒の自主・自律を育む生徒指導体制を継続し、高校生活支援カードおよび府の SC 事業との連携により個々の生徒を支援する教育相談体制の充実を図る。 （教育相談委員会の活用） ・いじめの未然防止、早期発見・早期解決のため、教職員の情報共有を図るとともに、「いじめ対策委員会」を中心に組織的に対応する。 ・全教員の共通認識の下で校則を見直し、継続的で対話的な生活指導を実践し、生徒の安全確保に努める。	（１） ア・生徒向け学校教育自己診断における 生活指導納得度 66%[72.5%] 気軽に相談できる担任以外の先生の存在肯定率 50%[58.8%] 教育相談委員会の月１回以上の開催　[13 回] ・生徒向け学校教育自己診断における 人間関係のトラブルが少なく落ち着いた環境の肯定率 95%[92.9%] いじめ対応における教員の真剣な対応肯定率 90%[89.8%] ・校則の見直し	

	（２） 特別活動等を通じた自己有用感の醸成と集団への帰属意識の向上 ア　生徒会活動の活発化と学校行事等の充実 部活動の活性化に向けた取組みの推進	（２） ア・生徒会執行部、生徒各委員会の組織化を図り生徒会行事等を通じ生徒の自治意識を育てる。 ・部活動体験入部期間の延長と複数化を図り、自己の成長につながる自発的活動の一環となるよう定着させる。 ・近隣中学校との部活動交流を促進する。（技術指導・合同練習）	（２） ア・生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度 92%以上[93.2%]	
	（３） 総合的なキャリア教育・人権教育の充実 ア　高大連携・企業連携を盛り込んだキャリアプランによるキャリア教育の充実 イ　外部人材の活用によるキャリア教育の実践 ウ　３年間を見通した人権教育の実践と充実	（３） ア・キャリアプランに基づいた取組みを進め、適切な進路情報の発信により自ら主体的に進路決定できる生徒を育てる。 進路選択のため、生徒のニーズに応じた大学見学会（２年生/７月）を実施する。 イ・同窓会の協力のもと学年ごとに「先輩に学ぶ」企画を実施する。 ウ・人権教育計画やいじめ防止基本方針に基づき、人権教育委員会・教育相談委員会を中心に人権教育を計画・推進する。 特に SNS とのつきあい方についての講演会を実施し、情報社会に対応できるようにする。	（３） ア・キャリアプランの策定 ・生徒向け学校教育自己診断における進路情報満足度 95%[93.2%] イ・生徒向け学校教育自己診断における進路・生き方を考える機会肯定率 90%[89.4%] ウ・生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さを学ぶ機会度 88%[88.4%] 命の大切さを学ぶ機会度 82%[81.2%]	
３ 地域連携・交流の確立と働き方改革を両立させる学校組織づくり	（１） 地域交流の拡大と深化による生徒育成の取組み ア　支援学校、近隣の保育園、幼稚園、小・中学校および地域社会との交流やボランティア活動の促進 イ　学校説明会、中学校訪問のさらなる充実 ホームページの活用促進 （２）働き方改革	（１） ア・生徒会、部活動、授業などを通じた八尾支援学校、近隣の子ども園、小・中学校との交流をさらに充実させる。 ・地域や諸施設との交流やボランティア活動への参加をさらに積極的に実施する。（地域の施設等での出張演奏等） ・それぞれの活動の一般生徒への広がりと広報（周知）による認識を高める。 イ・本校のスクールミッションが中学生、保護者に明確に伝わるよう中学や学習塾訪問、学校説明会を通じて、積極的・効果的な情報発信に努める。 ・ホームページを活用して、より活発な情報発信に努め、伝わりやすさを追求する。 また、緊急時には PTA 連絡メールを活用し、迅速な対応を行なう。 ・積極的に ICT を導入して、業務の精選と平準化を行う。 ・ノークラブデーや一斉退庁日を徹底し、教職員の健康管理と意識改革により、在校時間の縮減を図る組織づくりを行う。	（１） ア・生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりの多さ肯定率 30%[26.7%] 近隣の学校との交流の多さ肯定率 30%[20.9%] ・活動成果の披露の機会を増やす。 集会時の表彰披露、校内掲示等の実施 イ・学校説明会４回以上実施 参加者 1100 名以上[1855 名] ・中学校訪問 30 校以上（出前授業含む）[12 校] ・学習塾訪問 20 校以上 （ポスター・パンフレット配布）　[21 校] 保護者向け学校教育自己診断 ホームページは役立っている肯定率 70%[67.4%] ・会議のペーパーレス化 ・時間外勤務時間の縮減	